

NRI学生小論文コンテスト

野村総合研究所の「人づくり」支援プロジェクト



経済不況、年金問題、少子高齢化、そして東日本大震災など、何かと暗い話題の多い昨今の日本。そんな時代に生きる若者たちがよりよい未来を創っていくための力になりたい。「未来創発—Dream up the future.」を企業理念に掲げる(株)野村総合研究所は、そのような思いから学生小論文コンテストを6年前より開催。この6月に7回目となる小論文の募集が開始されるのを前に、日本を代表するシンクタンクならではの「人づくり」支援プロジェクトを紹介したい。

未来を切り開く 発想力・思考力を養う

環境問題、食料・資源問題、貧富の格差、金融危機、核開発をはじめとする安全保障の問題など、世界の国々はさまざまな課題に直面。また、インドや中国、インドネシアなどの新興国が著しい経済成長を遂げ、国際社会の中で存在感を示すようになってきている。

一方、日本国内に目を向ければ長らく続く不況、年金問題、少子高齢化、高い失業率、地方の過疎化に加え、昨年発生し、未曾有の被害をもたらした東日本大震災が暗い影を落としている。

混沌とする国際社会の中で、国内的にも多くの課題を抱えた日本のあるべき姿とは。そして、日本が世界のさまざまな課題を解決していくためにできることは何か。日本の未来を担う若者たちは、否応なしにこうした問いに向き合っていかななくてはならない。

そうした時代があって、新しい技術やアイデアが世界に変革をもたらして

いる。その典型的な例がIT技術だ。例えばフェイスブックが「アラブの春」の原動力となったことは記憶に新しい。また、IT技術を駆使した新たなビジネスモデルがこの10年、国内外で数多く生まれている。

社会や企業のあるべき姿を提言する「ナビゲーション」とその解決策となる「ソリューション」を事業の柱とする野村総合研究所(NRI)は、若者たちを支援する同社ならではの取り組みを行っている。それが「日本から未来を提案しよう!」をコンセプトに毎年開催されている「NRI学生小論文コンテスト」だ。

「これからの日本、そして世界を担う若い人たちが未来について考え、そして未来を切り開くための発想力、論理的思考力を養う機会を提供したい」。そのような思いから2006年に始まった同コンテストは、今年で7年目を迎える。開始当初は、大学生・高校生部門のみで、また参加者数も130程度であったが、2年目より留学生部門を設けたことも含め参加者数は年々増加。11年には1,067

人の参加者を数えるまでに規模が拡大している。また、若者同士が刺激を与えあい、よりレベルの高い論文を執筆してもらおうと、昨年「ペア応募」も始まった。

審査員も感心する斬新さ 過去の応募論文

過去に出題されたテーマは「2025年、新しい“日本型”社会の提案」「変わりゆく世界、進みゆく日本」といった日本や世界の問題を扱うもの。それに加え「ITを活用した日本発ビジネス」といったITソリューションを提供する企業ならではのテーマもあった。応募者からは、文系・理系を問わず、それぞれの専門や関心に沿った論文が寄せられている。その内容も、移民問題や高齢化社会に対する制度設計から生物を使った環境問題解決など、実にさまざま。

学生の応募動機は「自分の考えと真剣に向き合い、よりしっかりと考えた考えを持ちたい」「自分の考えを広く社会

●2009年度大賞(大学生の部)

「高齢社会日本における
新たなビジネスモデルの可能性」

鬼沢 啓さん(おにさわ・けい)



“思い”を形にする絶好の機会

もっとこうすればいいのに—

コンテストに応募したのは、学生の時に経験した介護士のアルバイトで感じたもどかしさがきっかけでした。いざそれを論理的な文章にしようとすると難しく苦労しましたが、この経験が今の仕事で生きています。

現在、私は三井住友海上火災保険(株)に就職し、そこで営業の仕事をしています。営業マンとして重要なのは、お客様のニーズや疑問などを的確に把握し、自分自身の問題として置き換え、頭の中に浮かんだアイデアを理論立てた提案として形にし、分かりやすく伝えることです。

コンテストはその想像力・構想力を鍛えてくれた、とても良い機会でした。また、審査員の方々に教えていただいた、実際にものごとを形にしていく過程で重要な多角的なものの見方は、日々の業務の基軸になっています。

今後、日本を含め世界は少子高齢化が進んでいくと予想されています。それをビジネスチャンスとして捉え、何かと悲観的に語られる将来に対し、一人でも多くの人が「安心」を感じられる社会を創りたい。そのため、現場と向き合いつつ新たな発想をもって提案していきたい。それが今の私の目標です。

●2010年度大賞(留学生の部)

「日本にしかできない
ユニバーサル・デザインの提案」

李 璣さん(イ・スル/韓国)



新しい自分の発見

きっかけは、当時通っていた日本語学校の担任の先生が薦めてくれたことでした。もちろん、日本語で長文の論文など書いたことはありませんでしたが、語学の練習のつもりで応募しました。

私の専門はデザイン。それまでデザイン以外の仕事は頭になかったのですが、論文を書いていく中で、初めて国家という単位で物事を考える経験をし、それを驚くほど面白いことだと感じる“新しい自分”を発見しました。

帰国後、一時期デザイン事務所で仕事をしていたのですが、コンテストのことが忘れられず、どうしても国に関わる仕事がしたいと思うようになりました。

日本で印象的だったのは、古き良き伝統や文化を大切にしながら、それを観光資源として生かしているということです。しかし、韓国には何でも新しいものが一番という雰囲気があります。将来は韓国の文化観光部で「韓国ならではのもの」を生かす観光振興に貢献できれば…。

とは言え、韓国で国家公務員試験は最難関の試験。たとえそれが無理でも、さまざまな中小企業のアイデンティティや商品の良さをデザインで伝えることで、“古きも大切にす国”にしたいと考えています。

に伝え、それがいかに評価されるか知りたいたい」といったものが多い。また、入賞した学生からは「小さなことで世の中に発表することで共感を生み、世の中を変えていくきっかけになると感じた」といった感想が寄せられている。論文執筆が自己形成に役立つとともに、野村総合研究所を通して広く社会に発信されるということが、学生に刺激を与えているようだ。

論文の審査は2段階。1次審査は野村総合研究所の社員が行い、2次審査は同社社員に加え、特別審査委員にジャーナリストで東京工業大学教授の池上彰氏、ノンフィクションライターの最相葉月氏が加わり選考される。

その際、論文の評価ポイントとなるのが「考察力・分析力」「提案力」「文章力」の3点。テーマと論点の整合性が明確で、独自の視点からの提案をわかりやすく伝えること、そして何より「執筆者の熱い思い」が感じられる論文であることが重要だ。これまで応募されてきた論文に対し、社員審査委員から「斬

新な発想のものもあり、自分の思考過程の固さに気付かされた」「自分の業務を見直すきっかけになった」といった声が上がると、斬新な論文が多い。

大賞や優秀賞、特別審査委員賞に選ばれた学生たちは、野村総合研究所の社員らの前で論文を発表。その翌日に表彰式と祝賀会が行われる。祝賀会では入賞者同士、今後の日本を担う若者たちの間に絆も生まれている。

子どもたちに希望ある未来を

12年度のテーマは「自分たちの子ども世代に創り伝えたい社会」。

「若い学生の皆さんには、いずれ自分も子どもたちに社会を託していくことを意識してもらい、自分たちだけでなく、さらに未来のためにこれから何をすべきかを積極的かつ前向きに考えてもらいたい」というのが、今回のテーマに込められた思いだ。

昨年の東日本大震災を受けて、今後のエネルギー問題をどうしていけばいいのか、今後の地震や津波にどう対応

すればよいのかなど、今まさに問われているのが“次世代への責任”だ。また少子高齢化社会と増加する社会保障費の負担など、従来の制度では対応が難しい問題が私たちの前には山積している。それらを解決するのは、むしろ柔軟な発想を持った若者たちなのかもしれない。

「強い思い入れのある論文や経験に裏打ちされた論文には引き込まれるし、好感が持てる。学生の皆さんにはぜひ、自分の普段感じている違和感や“こんな社会にしたい”という思いと向き合い、それを理論化し、ぶつけてきてほしい」(野村総合研究所CSR推進室長・横山喜一郎氏)。

今の20代の人たちの子どもが大人になっているだろう2050年には、地球の人口は約90億人に達すると言われている。その90億人が笑顔でいられるような世界にするために—。

今年も「NRI学生小論文コンテスト」に、柔軟で斬新な発想、熱い思いの詰まった論文が集まることを期待したい。



開催概要

テーマ	自分たちの子ども世代に創り伝えたい社会 ～あるべき社会の姿と私たちの挑戦
応募資格	<p><大学生の部> 日本国内の大学院、大学、短大、高等専門学校(4～5年)に在籍している学生で、2012年6月1日時点で27歳以下の、個人またはペア(ペアの相手は、大学生の部、留学生の部、高校生の部の応募資格者のいずれでも可)。</p> <p>-----</p> <p><留学生の部> 日本国内の大学院、大学、短大、高等専門学校(4～5年)、日本語学校に在籍している留学生で、2012年6月1日時点で30歳以下の、個人またはペア(ペアの相手は留学生の部の応募資格者に限る)。</p>
賞	大賞1名(賞金50万円)、優秀賞若干名(賞金25万円)、佳作若干名(賞金5万円)
字数	4,500～5,000字(別途400字程度の要約をつけてください)
応募期間	2012年6月1日(金)～9月18日(火)
入賞論文の発表	2012年11月30日(金)にコンテストホームページで発表
コンテストホームページ	www.nri.co.jp/contest2012.html
お問い合わせ	〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-6-5 丸の内北口ビル 株式会社野村総合研究所 「NRI学生小論文コンテスト2012」事務局 TEL : 03-6270-8200 E-mail : contest2012@nri.co.jp

NRI 未来創発
Dream up the future. **野村総合研究所**
Nomura Research Institute

NRIグループ

野村総合研究所 ソウル支店 台北支店 マニラ支店 モスクワ支店

NRIネットコム NRIセキュアテクノロジーズ NRIワークプレイスサービス NRIデータ・テック NRIサイバーバディ NRI社会情報システム
NRIプロセッシング NRIシステムテクノ NRIアメリカ NRIヨーロッパ NRI北京 NRI上海 NRI大連 NRI APAC NRI香港 NRIインド

国際協力の最前線をレポートする

国際開発 ジャーナル

International Development Journal

第7回

NRI学生小論文コンテスト2012

自分たちの子ども世代に創り伝えたい社会

JUNE 2012 No.667
<http://www.idj.co.jp>

6

